



一乗小だより

深く考える子
進んで取り組む子
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第26号
令和6年 9月17日発行
TEL 43-2024 FAX 43-2025
E-mail : itijo-e@fukui-city.ed.jp

第1回学校評価《7月実施》の結果から

保護者の皆様、7月に実施しました第1回学校評価にご協力をいただき、ありがとうございました。学校評価は、年度最初に校長が作成するスクールプランに基づき行っている教育活動について、児童、保護者、教職員の三者が評価、振り返りを行い、今後の教育活動に役立てるためのものです。

先日、学校評価《第1回》集計結果のお知らせを配付しましたが、今回の学校だよりでは、スクールプランの重点目標にある具体的な取組における、学校評価結果について考察を掲載しましたのでお読みください。そして、学校評価の結果や考察について、ご意見やご質問などありましたら、右側のQRコードにてご回答いただきますようお願いいたします。

第1回学校評価の結果について



番号	質問内容	A(ア)	B(イ)	C(ウ)	D(エ)	E(オ)	0%	20%	40%	60%	80%	100%
【質問1】	全学年児童 学校が楽しい。	89%	11%	0%	0%							
【質問1】	2年生 学校がたのしい。	100%	0%	0%	0%							
【質問1】	3・4年生 学校が楽しい。	83%	17%	0%	0%							
【質問1】	5・6年生 学校が楽しい。	88%	13%	0%	0%							
【質問5】	保護者 我が子は、学校生活を楽しくしており、友人関係も良好である。	78%	17%	6%	0%	0%						

スクールプランにあるめざす児童像「深く考える子の育成」について3つの重点目標を置き、具体的な取組を進めています。これまでの取組を継承しつつ、今年度は特に「考えや思いを言語化する」活動に重点をおいて、実践を進めています。今回の学校評価においては、評価A(あてはまる)、評価B(ややあてはまる)の肯定的評価が多くの質問において高い結果となっています。児童アンケートでは「授業がよくわかる」100%、「問い返しにより考えを深めることができる」89%、適切な言語表現を用いて考えや思いを相手に伝えることができる」94%と高い肯定的評価となっています。

しかし、本校では学校評価の評価A(あてはまる)の数値結果を中心に考察しており、そう見るならば、今年度の目標数値80%に達成している項目が少ないことや、児童と保護者、教職員の数値割合が大きく違うことから具体的な取組についての検証が必要と考えます。そして、今後の取組にどのように活かしていくのか明確にしておきたいと考えます。

深-2 問い返しにより考えを深めることができる(80%)

【質問11】	全学年児童						
【質問11】	2年生						
【質問11】	3・4年生						
【質問11】	5・6年生						
【質問12】	保護者						
【質問9】	教職員						

深-3 適切な言語表現を用いて、考えや思いを相手に伝えることができる(80%)

【質問12】	全学年児童						
【質問12】	2年生						
【質問12】	3・4年生						
【質問12】	5・6年生						
【質問13】	保護者						
【質問10】	教職員						

本校が特に力を入れている項目から《考察》

【質問13】	全学年児童	進んで読書をしている。	83%	6%	11%
【質問13】	2年生	すすんでどくしょをしている。	100%		
【質問13】	3・4年生	進んで読書をしている。	100%		
【質問13】	5・6年生	進んで読書をしている。	63%	13%	25%
【質問14】	保護者	わが子は、積極的に読書に取り組んでいる。	28%	28%	33%
【質問11】	教職員	自分は、児童が積極的に読書に取り組むような働きかけを行っている。	38%	38%	25%
【質問14】	全学年児童	宿題の他に、進んで、勉強や自主学習をしている。	56%	17%	22%
【質問14】	2年生	しゅくだいのほかにすすんで、べんきょうをしている。	100%		
【質問14】	3・4年生	宿題のほかに、進んで、べんきょうや自主学習をしている。	83%	17%	
【質問14】	5・6年生	宿題の他に、進んで、勉強や自主学習をしている。	13%	25%	50%
【質問15】	保護者	わが子は、家庭学習（進んで勉強・自主学習）に取り組んでいる。	11%	56%	22%
【質問12】	教職員	自分は、児童が主体的に家庭学習に取り組めるような指導をしている。	13%	75%	13%
【質問6】	全学年児童	道徳の時間には考えを深めることができている。	56%	28%	17%
【質問6】	2年生	どうとくの時間にはじぶんの考えについてなんども考えることができる。	100%		
【質問6】	3・4年生	道徳の時間には考えを深めることができている。	83%	17%	
【質問6】	5・6年生	道徳の時間には考えを深めることができている。	13%	50%	38%
【質問8】	保護者	わが子は、自分なりに深く考えて発言や行動することができる。	39%	50%	11%
【質問2】	教職員	本校は、道徳の授業時間を確保し、心を見つめさせたり生き方について考えさせたりする指導に努めている。	63%	38%	
【質問3】	保護者	学校は、子どもたち一人一人を大切に、温かく指導している。	67%	28%	6%
【質問19】	教職員	自分は児童の悩みや相談に親身なって対応し、児童との信頼関係を築いている。	63%	38%	
【質問4】	保護者	子どものことで、気軽に学校に相談できる。	39%	50%	6%

○今年度取組の「自分の考えや思いを言語化する活動の推進」を支える取組の一つとして、読書を通して言語化力の向上を図っている。それにより数値結果も昨年度より高くなっており、効果が現れている。教職員の働きかけを今後も続けていきたい。

●宿題以外の進んで勉強については学年によって差が見られ、家庭学習のあり方も含め、自主的な取組が課題である。

◆道徳は重点目標「思いやりのある子の育成」において、具体的な取組として議論する道徳の実践から児童の心の醸成を図りたい。

「学校が子どもたち一人一人を大切に、温かく指導しているか」の問いや、「保護者が学校へ子どものことで相談しやすいか」の問いについて、この数値結果からさらに改善していくことが必要だと考えます。児童の育成のためには、教職員の指導に対して児童が心を開いているかが大切であり、保護者からの協力と信頼なくては成し得ることはできないと考えます。そのための努力を教職員一同で行っていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

..... 切り取り

学校へのご意見や感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→

--	--

年 名前

(無記名でも構いません)

